

【熊本県産アサリブランドを守るための意見交換会】

開催日時：令和4年1月31日 14時から

開催場所：熊本県庁行政棟本館5階 知事応接室

出席者：熊本県

蒲島県知事、田嶋副知事、木村副知事、小牧知事公室長、竹内農林水産部長、
小原環境生活部政策審議監 ほか

熊本県漁連

藤森代表理事会長、橋本副会長、吉本代表監事、水上参事

JNNが報じたアサリの産地偽装問題（令和4年1月22日）に端を発した『熊本県産アサリ』に対する全国的な批判的反響に対し、その実態解明と根絶のため蒲島県知事の要請を受け開催されました。

蒲島県知事は冒頭のあいさつで、

「ただちに産地偽装を根絶する取り組みを行わなければ熊本ブランドの未来はないと考えております。この状況を打破すべく県として強い決意をもって取り組む決意です。そこで、この危機的状況を打破すべく皆様が出荷されている熊本県産の生きアサリの出荷を当面停止してください。その間に、私たちとともに産地偽装を根絶するための取り組みを進めたいと思っています。漁業者を始め関係者の皆様には厳しい対応になると思いますが、全国の消費者の方々に偽装されていない真の熊本県産アサリを提供するため、そして熊本ブランドを守るため、是非ご理解とご協力をお願いいたします」との考えを示され、蒲島県知事から藤森会長へ《 要請書 》が手渡された後、

本会藤森会長より採貝漁業者のためにお時間を頂いたこと、知事が産地偽装の根絶に立ち上がっていただいたことに対する謝辞を述べられた上で、

「漁業者にとっては死活問題。産地偽装のために採貝を営んでいる若手の組合員は安いから（産地偽装の横行）売れない（県産）、漁業から離れるという現象が度々起きている、又、産地表示法の考え方にも疑問を持っていることなどを述べ、知事の指導の下、一致団結して熊本県産の産地偽装をなくし採貝漁業者を守るため一生懸命頑張りたいと思いますのでよろしく願います」と答弁された。

意見交換では、県と県漁連が共にアサリの産地偽装対策に取り組むことなどが話し合われた。

以上



【 要請書手甲交】



【意見交換風景 上段：蒲島県知事発言 下段：藤森漁連会長発言】